

研究機関名：下関市立市民病院

研究課題名：維持血液透析患者の日常生活困難感に関連する因子の検討

研究期間：承認日～2025年2月9日

対象材料：

病理材料（対象臓器名： ）

生検材料（対象臓器名 ）

血液材料

遊離細胞

■その他（診療録および身体機能評価・質問紙評価で各種データを収集する。）

上記材料の採取期間： 承認日～2024年11月8日

意義：血液透析患者における日常生活困難感とは転倒や死亡率の独立した規定因子であることが報告されている。また、血液透析患者の日常生活困難感には年齢や併存疾患保有数、栄養状態だけでなく、歩行速度、膝伸展筋力、バランス能力などの身体機能や身体活動量との関連性が報告されている。近年、包括的下肢機能評価として Short Physical Performance Battery (SPPB) が汎用されている。SPPBは身体的フレイルの指標であり、SPPBで判定した身体的フレイルは、本邦の外来維持透析患者では60%に認められると報告されている。また、維持透析患者における身体的フレイルは死亡リスク上昇、入院リスク上昇の独立した規定因子であると報告されている。また、高齢者における身体活動量の低下は死亡リスク上昇の独立した規定因子であり、座位時間を減らし、少しでも身体活動を増やすことが推奨されている。さらに、高齢者における社会的孤立は死亡リスクや日常生活動作(ADL)・認知機能低下の独立した規定因子であると報告されている。しかし、維持血液透析患者における日常生活困難感と身体的フレイル、身体活動量、社会的孤立など様々な因子を含めて関連性を検討した報告は乏しい。維持血液透析患者における日常生活困難感に関連する因子が明らかとなれば、運動療法や患者教育を行ううえで有益である。

目的：維持血液透析患者の日常生活困難感に関連する因子を検討すること。

方法：通常診療の範囲内で得られる基本情報や医学的情報、社会的情報を診療録より収集する。また、身体機能評価・質問紙評価を実施する。

個人情報の取り扱い：患者様の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。

問い合わせ・苦情等の窓口：

〒750-8520

山口県下関市向洋町一丁目13番1号

下関市立市民病院 リハビリテーション部 月城 一志

TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838